
本学におけるFD活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、「平成30年度 第2回FD研修会」、「平成30年度大学院授業アンケート調査結果」、「平成30年度後期授業アンケートの活用状況調査及び中間アンケートの実施結果調査の結果」について、報告いたします。

1. 平成30年度 第2回FD研修会

「学校現場の抱える課題と本学の果たすべき役割－

『多忙化の問題』と『求められる教員像』を中心に－」

講師：教職キャリア高度化センター 初田 幸隆 教授

今年度第2回目となるFD研修会を、平成30年12月19日（水）13時から13時50分まで、大会議室において開催しました。今回は、本学教職キャリア高度化センター初田幸隆教授に、「学校現場の抱える課題と本学の果たすべき役割－『多忙化の問題』と『求められる教員像』を中心に－」というテーマでお話いただき、91名の先生方のご参加がありました。



前半は、学校現場の現状、特に教員の多忙化の問題について、多様な側面から説明していただきました。いじめや障がいを持った児童への支援など学校現場が直面するさまざまな課題への対応、アクティブラーニング、チーム学校、開かれた学校づくり、道徳の教科化などの新しい取り組みとそのための研修など、教員に求められる仕事は拡大する一方であり、そのなかで長時間労働を余儀なくされ、疲弊していく教員の姿をとってもリアルに感じることができました。

後半では、これからの教員に求められる資質について、コミュニケーション能力およびコアクオリティ（非認知能力）が特に重要であるということをお話されました。コミュニケーション能力は、学校教員に限らず、企業の新卒採用の際にも最も重視されている反面、学生の自己評価と企業からの評価のギャップがかなり大きいとのことでした。



最後に、初田教授は本学の3ポリシーを取り上げ、現在の入試がアドミッション・ポリシーに書かれている人物像を見極める内容・方法になっているか、ディプロマ・ポリシーは現場が求める教員像と一致しているか、カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーを実現できるものになっているか、という大きな問題提起をされました。合わせるべきは社会のものさしではないのか、私たち大学教員が向き合うべきなのは学生と院生なのではないか、という初田教授の最後のメッセージは、とても心に残りました。

最後に、ご参加いただいた先生方からの感想の一部をご紹介します。

- ・学校現場のリアルな現状についてのお話を伺って、「学び続ける教員」とか言いつつ「いったいいつ学ぶのか」と暗い気持ちになりました。どうしても自分の学生時代のことと比べてしまいますが、当時の先生方は、そんなに窮屈そうにはされていなかったと思います。「求められる教員像」と言うと「今のシステムにフィットする教員」と言うことになるとと思いますが、むしろ「今のシステムを変える力のある教員」が望まれているのではないかと思います。(そういう人は採用試験に受からなさそうなところが、一番の問題かも知れません)
- ・新しい企画で話していただけてよかったです。初田先生の熱いおもいが伝わってきました。現場の多忙さと実態について、大学の教員はあまりにも無知だと思います。大学教員が変わる一助になればいいのにと切に願います。
- ・理論知と実践知を関連づけるという点が大変参考になりました。なぜなら、大学の講義は、各教員の裁量で行われ、関連付けるという作業は学生の資質に依っているのが現状であるからです。学科内などで授業内容を共有し横断的な学びの環境を作ることが必要なのではないかという思いを新たにしました。また、入試の面接でコア・クオリティを判断する難しさを感じていた所だったので、どのような問いで判断するかなど十分な事前の議論が必要であるとも感じました。
- ・教育現場における評価の仕方について学び、教える側と学ぶ側の一体化の意味がよくわかりました。成績評価は生徒の到達度であると同時に教師の指導力であることが前提となっているという言及は、大学の学生に対する評価の仕方に通じると認識した次第です。若年層の教員に求められているコミュニケーション能力とは何か。この問いに対して教育現場の捉え方を具体的にお話いただき、参考になりました。興味深いお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

2. 平成30年度 大学院教育学研究科授業アンケート調査結果

平成30年度大学院教育学研究科授業アンケート調査結果についてご報告いたします。

このアンケートは、大学院教育学研究科における授業の質を高めるためのFD活動の基礎資料とすること、並びに授業改善に役立てることを目的としています。

調査対象者は、教育学研究科に在籍する大学院生132名です。アンケートは、学校教育専攻、障害児教育専攻、教科教育専攻という大括りの形での回答をお願いしました。昨年度からの変更ですが、回答者の匿名性が高まり、より踏み込んだ回答を得ることを狙いとしています。回答者数、回収率等については表1の通りです。回答者数は43人、回収率は32.58%であり、昨年度の39.29%から6.71ポイント減となります。FDについての有効な知見を導くために、回収率の向上策を検討する必要があると言えます。

【表1 回答者数】

区分	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			不明	全体
	専任教員 経験なし	専任教員経験あり		専任教員 経験なし	専任教員経験あり		専任教員 経験なし	専任教員経験あり			
		現職	非現職		現職	非現職		現職	非現職		
回答者数	7	3	0	1	0	1	22	5	2	2	43
在籍者数	32			13			87			0	132
回答率	31.25%			15.38%			33.33%			—	32.58%

質問 1. 平成 30 年度の履修科目数

表 2 は、所属別および授業区分ごとの履修科目数です。今回のアンケートの基礎情報の一つです。

【表 2 平成 30 年度履修科目数】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教育 実践総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実践 特別演習	
履修科 目数	151	14	28	26	8	2	93	16	16	354

質問 2. 「どの程度意欲的に取り組みましたか」

質問 2 では、所属ごとまた授業区分ごとに、受講生の意欲の度合いを「とても意欲的に取り組んだ」「やや意欲的に取り組んだ」「やや意欲的に取り組んでいなかった」「ほとんど意欲的に取り組んでいなかった」の 4 つの選択肢で尋ねました。結果は表 3 の通りです。「とても意欲的に取り組んだ」「やや意欲的に取り組んだ」が合わせて 90.12% で、前回の 95.55% よりは低下したものの、おおむね良好であることがうかがえます。個別の点では、障害児教育専攻の「特論又は特講」で「ほとんど意欲的に取り組んでいなかった」が 19.23% とやや高い点が目立ちます。ただしこの 5 (科目) という回答は、2 人という少数の回答者がおこなったもの (の合計) であることを付記しておきます。

【表 3 質問 2. 「どの程度意欲的に取り組みましたか」 の回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても意欲的に 取り組んだ %	100 66.23%	7 50.00%	12 42.86%	14 53.85%	6 75.00%	1 50.00%	52 55.91%	13 81.25%	11 68.75%	216 61.02%
やや意欲的に 取り組んだ %	34 22.52%	7 50.00%	14 50.00%	7 26.92%	2 25.00%	1 50.00%	30 32.26%	3 18.75%	5 31.25%	103 29.10%
やや意欲的に取り 組んでいなかった %	2 1.32%	0 0.00%	2 7.14%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	11 11.83%	0 0.00%	0 0.00%	15 4.24%
ほとんど意欲的に取り 組んでいなかった %	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	5 19.23%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	5 1.41%
未回答 %	15 9.93%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	15 4.24%

質問3. 「期待どおり・期待以上の科目の理由（どういふ点がよかったのか）」

質問3は、授業の満足度についてです。表4からは、授業全体として、「とても満足した」「やや満足した」が合わせて85.31%であり、昨年度85.63%と同水準の良好な満足度がうかがえます。とくに教科教育専攻はいずれの科目群でも平均を超える高い評価となっていることが確認できます。

【表4 質問3. 「どの程度満足しましたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても満足した %	83 54.97%	8 57.14%	16 57.14%	14 53.85%	5 62.50%	1 50.00%	66 70.97%	13 81.25%	10 62.50%	216 61.02%
やや満足した %	49 32.45%	6 42.86%	5 17.86%	7 26.92%	3 37.50%	1 50.00%	11 11.83%	1 6.25%	3 18.75%	86 24.29%
やや不満だった %	3 1.99%	0 0.00%	5 17.86%	4 15.38%	0 0.00%	0 0.00%	16 17.20%	2 12.50%	3 18.75%	33 9.32%
とても不満だった %	1 0.66%	0 0.00%	2 7.14%	1 3.85%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	4 1.13%
未回答 %	15 9.93%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	15 4.24%

質問4. 「どの程度の難易度でしたか」

質問4は、難易度についてです。表5から、全体としては、「とても難しかった」が11.86%、「やや難しかった」と「やや易しかった」が合わせて75.43%、「とても易しかった」が8.47%となりました。比較的良好と考えてよいように思われます。個別の点では、教科教育専攻の教科内容論分野で、「やや易しかった」が56.25%となっているのが目立ちますが、4件法で尋ねておりますので、必ずしもネガティブな評価というわけではありません。ただし、授業者の先生方のねらいと整合しているかご検討いただければと思います。

【表5 質問4. 「どの程度の難易度でしたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても難しかった %	16 10.60%	1 7.14%	4 14.29%	4 15.38%	0 0.00%	1 50.00%	11 11.83%	1 6.25%	4 25.00%	42 11.86%
やや難しかった %	84 55.63%	10 71.43%	16 57.14%	17 65.38%	8 100.00%	1 50.00%	41 44.09%	4 25.00%	7 43.75%	188 53.11%
やや易しかった %	36 23.84%	3 21.43%	8 28.57%	5 19.23%	0 0.00%	0 0.00%	16 17.20%	9 56.25%	2 12.50%	79 22.32%
とても易しかった %	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	25 26.88%	2 12.50%	3 18.75%	30 8.47%
未回答 %	15 9.93%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	15 4.24%

質問5.「体系的でよくまとまっていたか」

質問5は授業内容の体系的性についての質問です。全体としては、「とてもまとまっていた」「ややまとまっていた」が合わせて84.46%と、昨年度と同水準で良好であることがうかがえます。学校教育専攻の特別演習で「ややまとまっていなかった」が50.00%となっていますが、演習という性格上、必然的に内容が多岐にわたったということもあるように思います。

【表6 質問5.「体系的でよくまとまっていたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とてもまとまっていた %	100 66.23%	7 50.00%	19 67.86%	15 57.69%	3 37.50%	1 50.00%	59 63.44%	10 62.50%	8 50.00%	222 62.71%
ややまとまっていた %	32 21.19%	0 0.00%	3 10.71%	10 38.46%	5 62.50%	1 50.00%	18 19.35%	3 18.75%	5 31.25%	77 21.75%
ややまとまっていなかった %	3 1.99%	7 50.00%	5 17.86%	1 3.85%	0 0.00%	0 0.00%	13 13.98%	2 12.50%	3 18.75%	34 9.60%
ほとんどまとまっていなかった %	1 0.66%	0 0.00%	1 3.57%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	3 3.23%	0 0.00%	0 0.00%	5 1.41%
未回答 %	15 9.93%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 6.25%	0 0.00%	16 4.52%

質問6.「担当教員が受講生の理解や反応を受け止めながら授業をしていたと思いますか」

質問6は、受講生の理解や反応に即した授業であったかを問うものです。表7から、全体としては、「とても思う」「やや思う」が合わせて92.37%となりました。前回の86.24%から6.13ポイント増です。逆に「やや思わない」「ほとんど思わない」は合わせて3.39%となりました。双方向的に展開される授業が増えてきたことがうかがわれます。

【表7 質問6.「担当教員が受講生の理解や反応を受け止めながら授業をしていたと思いますか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても思う %	75 49.67%	7 50.00%	11 39.29%	17 65.38%	8 100.00%	2 100.00%	70 75.27%	13 81.25%	10 62.50%	213 60.17%
やや思う %	56 37.09%	6 42.86%	15 53.57%	5 19.23%	0 0.00%	0 0.00%	23 24.73%	3 18.75%	6 37.50%	114 32.20%
やや思わない %	2 1.32%	1 7.14%	0 0.00%	4 15.38%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	7 1.98%
ほとんど思わない %	3 1.99%	0 0.00%	2 7.14%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	5 1.41%
未回答 %	15 9.93%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	15 4.24%

質問7. 「授業を受けるにあたってシラバスは参考になりましたか」

質問7はシラバスの活用について尋ねたものです。表8から、全体として、「とても参考になった」「やや参考になった」が合わせて84.18%となりました。前回の80.17%から4.01ポイント増という良好な結果となりました。

【表8 質問7. 「授業を受けるにあたってシラバスは参考になりましたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても参考になった %	89 58.94%	4 28.57%	18 64.29%	10 38.46%	3 37.50%	1 50.00%	51 54.84%	9 56.25%	7 43.75%	192 54.24%
やや参考になった %	44 29.14%	4 28.57%	8 28.57%	11 42.31%	2 25.00%	1 50.00%	26 27.96%	4 25.00%	6 37.50%	106 29.94%
やや参考にならなかった %	0 0.00%	6 42.86%	0 0.00%	5 19.23%	3 37.50%	0 0.00%	16 17.20%	2 12.50%	3 18.75%	35 9.89%
ほとんど参考にならなかった %	3 1.99%	0 0.00%	2 7.14%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 6.25%	0 0.00%	6 1.69%
未回答 %	15 9.93%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	15 4.24%

質問8. 「教員となるうえで（教員にとって）役立つと感じましたか」

質問8は、当該授業の内容が、教員となるうえで、あるいは教員にとって役に立つと思うかを尋ねたものです。なおこの設問は、「教員となるうえで（教員にとって）」と尋ねることで、必ずしも教員志望でない受講生が回答するケースについても配慮したかたちになっています。

表9から、全体として、「とても役立つと感じた」「やや役立つと感じた」が合わせて87.85%と良好な結果となりました。前回の83.00%から4.85ポイント増です。前回調査では、学校教育専攻の「特論又は特講」で「やや役立つと感じない」「ほとんど役立つと感じない」と回答した受講生が20.22%と目立っていましたが、今回は1.32%と劇的に改善しています（18.9ポイント増）。

【表9 質問8. 「教員となるうえで（教員にとって）役立つと感じましたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても役立つと感じた %	94 62.25%	6 42.86%	17 60.71%	21 80.77%	6 75.00%	2 100.00%	62 66.67%	13 81.25%	10 62.50%	231 65.25%
やや役立つと感じた %	40 26.49%	2 14.29%	4 14.29%	4 15.38%	2 25.00%	0 0.00%	19 20.43%	3 18.75%	6 37.50%	80 22.60%
やや役立つと感じないと感じた %	0 0.00%	6 42.86%	5 17.86%	1 3.85%	0 0.00%	0 0.00%	10 10.75%	0 0.00%	0 0.00%	22 6.21%
ほとんど役立つと感じないと感じた %	2 1.32%	0 0.00%	2 7.14%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 2.15%	0 0.00%	0 0.00%	6 1.69%
未回答 %	15 9.93%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	15 4.24%

質問9. 「受講生がストレートマスターと現職教員で構成されている授業を履修して感じたこと（配慮してほしいこと）があれば記入してください。」についての回答（自由記述）

①専任教員経験なし

【肯定的意見】

- ・どちらの視点を持っている人が同じ空間で議論することで、とても有意義に感じた。
- ・模擬授業、ディスカッションで、現場の子どもたちを意識したアドバイスをいただけるので、とても参考になる。
- ・生の事例を発表いただいたりと、体験談をきくことで子どもたちの現状や問題について考えることができるとても参考になることが多かった。
- ・特にありません。現職経験のある方のお話を聞くことはとても勉強になるので、ありがたく感じております。
- ・現職の先生方から実際の現場での実状を踏まえたお話を伺うことができ、貴重な学びとなりました。
- ・配慮してほしいことは特になし。むしろストレートマスターと現職教員が一緒の方が現場の視点で理論を考えやすくなる。
- ・現職の発表等はとても刺激的。それに負けないようこちらも新しいものを提示しようと思える。お互いにより影響を与えられればと思う。
- ・現職の先生方とストレートマスターが意見の交流をする機会があったり、現場の話を聞かせてもらうことができるとても有意義でした。
- ・現場のことが分からないため、現職教員の方の経験や学校の様子を授業の中で聞いたのはよかったです。
- ・現職の方のリアルな実体験がきけるのは良い体験でした。
- ・障害児教育専攻の科目は、むしろ現場での経験が重要となるので、ストレートマスターではあるが、現職の教員と意見を交換できたのは大変有意義であった。

【配慮や改善を求める意見】

- ・授業者の経験談のみを語る授業はやめてほしい。
- ・ストレートマスターの自分からすれば、現場の意見を知れる良い機会だが、逆の立場だと、良いことは少ないかもしれない。
- ・現職の方々が研究されているテーマや理由を知りたい。特に、なぜ院に入ったのか。
- ・互いの経験や知恵をだしあうような機会をたくさん行う。
- ・担当教員が意図的にごちゃまぜのグループを作り、意見交換できるようにすると良いと思う（そもそも意見交換する授業があまりないが）

②専任教員経験あり・現職者

【ストレートマスターがいることのメリット】

- ・ストレートマスターの方々の意見を聞ける活動があることは、新鮮でお互いの教育について見つめ直す機会となって良い。

【配慮や改善を求める声】

- ・現職教員ですが、ストレートマスターの連合所属の学生が多いクラスは、学ぶ姿勢のちがいか群れる雰囲気があり、私自身にとっては学びづらかった。（私語、場所どりなどのわがもの意識が強い）
- ・ストレートマスター向けの授業が多く、レベルの低さを感じた。ただ、ストレートマスターの意見や考え等を聞くのも自分の幅を広げるには役立った。よく聞くことだが、現職教員は自分の話（経験）を伝える場面が多くスキルアップにはならないという事が改善点としてあげられる。

質問10.「その他授業改善に資するご意見があれば、記入してください。」への回答（自由記述）

①専任教員経験なし

【授業内容や構成について】

- ・学校教員上がりではなく研究者タイプの先生の授業は役に立たないことが多い。アクティブラーニングの話しながら、アクティブな授業ができないのは良くないと思う。
- ・もう少し専門に集中したい。
- ・本年度は授業があまりなかったのも、特にありません。体験的な実習授業がそもそも少ないことは改善してほしいです。
- ・学部生徒の合同授業であったが、院生の難易度と学部の難易度がしっかり設定されており、良かった。
- ・教育学研究科は、ストレートマスターが多く、授業も実践より理論がベースになってしまうため、連合や現職教員、また非常勤等の経験のある人と交流できるような授業を増やしてほしい。（授業実践に結びつきにくい。）

【設備面での意見】

- ・外部の先生の授業時に、エアコンの鍵を借りてこないと使用できないということを先生が存じておらず困ってらしたので、外部の先生方への連絡や情報共有を徹底してほしいです。
- ・授業の資料（レジュメや補足）をネット上で共有して、印刷したい人は印刷してくる、というかたちになっている授業がありました。大学からもらっている印刷ポイントは学生だとそう多くないので、すぐにポイントがなくなっていました。せめてレジュメだけでも先生の側で印刷していただくと助かります。
- ・教室にWi-Fiがとんでこないのは電子データ等を見る際に不便。ICT化の時代なのでできる限り大学中にWi-Fiが届くようにしてほしい。

②専任教員経験あり・現職者

【授業について】

- ・現職にとっては6，7限を有効に使いたいが、昨年度より増えたもののやはり学びづらい。学びたいものが学べない。単位修得のためだけの授業選びとなる。（やはり休職しないと学べない。なら、現職教員でも学べる云々とうたい文句は外すべき。）
- ・シラバスが去年のままになっていて、今年がちがうというものがありました。論文や本を学生に分担させて、授業をすることが多いのですが、担任の先生も講義をしてほしいと思います。
- ・大学院の授業なのに、資料を配付して、それをただ読み上げるだけの授業はもったいないと考える。

③専任教員経験あり・非現職者

【授業について】

- ・一方向の講義ではなく、ALを取り入れた、授業改善をお願いしたい。

3. 平成30年度後期授業アンケート活用状況調査及び

中間アンケート実施結果調査の結果報告

1. 調査の概要

前期及び後期の授業の後半に実施をお願いしております学部授業アンケートにつきまして、アンケートを実施いただきました皆様に集計結果をお返ししています。お返しした結果の活用状況について、調査を行いました。同時に、昨年10月をお願いいたしました「平成30年度後期 授業中間アンケート」の実施状況につきましても調査を行いましたのでご報告します。アンケートの回収枚数は常勤・非常勤合わせて53枚でした。

2. 学部授業アンケートフィードバック調査の結果

問1. 前年度等に実施した授業アンケート結果を平成30年度後期の授業に反映させている

項目	回答数	比率
はい	45	84.9%
いいえ	1	1.9%
前年度等にアンケート未実施	7	13.2%
計	53	100%

問2. 反映させていない理由についてお聞かせください。

- ・シラバスを一部変更したため
- ・隔年開講の上、受講生少人数であったため

問3. 授業に反映された内容についてお聞かせください（複数回答可）

項目	回答数	比率
時間外の学習時間を見直した	7	6.5%
意欲的に取り組めるよう対応した	16	14.8%
テーマ・領域を見直した	2	1.9%
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	6	5.6%
難易度を見直した	16	14.8%
体系的でまとまった授業を心掛けた	7	6.5%
授業の説明をわかりやすくした	16	14.8%
テキスト(配布資料など)のレベルを見直した	8	7.4%
速度(進度)を見直した	10	9.3%
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	16	14.8%
その他	4	3.7%
計	108	100.0%

【テキスト(配布資料など)のレベルを見直した】回答への記述

- ・スライドの内容を配布資料に含めた

【その他の回答】

- ・学生からの要求を専任教官と相談して対応策があるか考慮した
- ・アクティブラーニングを意識
- ・課題を早めに提示するようにした
- ・視聴覚素材を用いて興味が持てるようにした

8割以上の先生方が、前年度等に実施した授業アンケート結果を授業に反映させていると回答しておられます。反映させた内容は、授業の説明をわかりやすくする、難易度を見直すなど受講生の理解度に合わせる工夫と、意欲的に取り組めるように対応をする、受講生の理解や反応を受けとめるようにするなど受講生への配慮が多く見られました。一方、フィードバックしていない理由として、シラバスの変更、隔年開講で受講者が少ないということが挙げられていました。問3の選択肢およびその他の回答にありますように、授業アンケートを反映させるにはさまざまな内容や方法があります。1人でも多くの先生方に授業アンケートの結果をご活用いただければ幸いです。

3. 後期学部中間アンケート実施状況調査結果

問1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した

項目	回答数	比率
はい	36	67.9
いいえ	13	24.5
回答なし	4	7.5
計	53	100.0

問2. 授業中間アンケートを実施しなかった主な理由についてお聞かせください。

- ・毎時間振り返りシートを提出させて、学生とコミュニケーションをとるようにしているため。
- ・毎回の授業で学生の声を聞くしくみを作っているため
- ・毎回感想や意見を書かせているため
- ・毎時間ミニレポートを実施・実習の授業であり、常に学生のリアクション、フィードバックを元に進めているので、中間アンケートは必要ないと思われま。
- ・多数の教員が、3回ずつ実施する授業なので、(受講する分野がバラバラ)。授業アンケートはしていません。
- ・特に必要を感じなかったため。 ・時間的余裕がなかったため
- ・アンケートを実施する時間がとれなかったため ・授業時間が減ることをさけるため
- ・時間が確保できなかった ・アンケートを行う時間がとれなかった
- ・授業内容が混み合っていた為 ・履修した学生が3名だったため

問3. 使用した様式について（中間アンケートを実施したと回答された方のみ）

項目	回答数	比率
FD委員会の様式	33	91.7
独自の様式	2	5.6
両方の様式	1	2.8
計	36	100.0

問4. 中間でのアンケートを実施することについて（中間アンケートを実施したと回答された方のみ）

項目	FD委員会 様式使用	独自様式 使用	両方の 様式使用	計	比率
意義があった	12	0	1	13	36.1
どちらかという意義があった	13	1	0	14	38.9
どちらかという意義がなかった	4	1	0	5	13.9
意義がなかった	0	0	0	0	0.0
回答なし	4	0	0	4	11.1
計	33	2	1	36	100.0

問5. 授業中間アンケートの結果について、受講生と話し合ったり、言及したりされましたか。
(中間アンケートを実施したと回答された方のみ)

項目	FD委員会 様式使用	独自様式 使用	両方の 様式使用	計	比率
はい	17	1	1	19	52.8
いいえ	14	1	0	15	41.7
回答なし	2	0	0	2	5.6
計	33	2	1	36	100.0

問6. 授業へのフィードバックの内容について、お聞かせください(複数回答可)。

項目	FD委員会 様式使用	独自様式 使用	両方の 様式使用	計	比率
時間外の学習時間を見直した	5	0	0	5	6.7
意欲的に取り組めるよう対応した	9	0	0	9	12.0
テーマ・領域を見直した	2	0	0	2	2.7
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	3	0	0	3	4.0
難易度を見直した	10	0	0	10	13.3
体系的でまとまった授業を心掛けた	3	0	0	3	4.0
授業の説明をわかりやすくした	13	0	0	13	17.3
テキスト(配布資料など)のレベルを見直した	2	0	1	3	4.0
速度(進度)を見直した	10	0	0	10	13.3
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	11	1	1	13	17.3
その他	4	0	0	4	5.3
計	72	1	2	75	100.0

【その他の内容】

- ・部屋が広くて寒いという意見があったので、早めに部屋へ行き、暖房をONにしている。
- ・アンケートを教員評価と勘違いしている院生がいることに驚いた。
- ・席替えの要望あったので早速行った(名簿順に基づく)
- ・このままで良いとのことであった

問7. FD委員会様式の「授業中間アンケート」の設問について、お聞かせください。

項目	FD委員会 様式使用	独自様式 使用	両方の 様式使用	アンケート 未実施	回答なし	計	比率
改善の余地あり	2	0	0	1	1	4	7.5
現状のままでよい	30	1	1	3	2	37	69.8
回答なし	1	1	0	9	1	12	22.6
計	33	2	1	13	4	53	100.0

【改善の余地あり】

- ・アンケート過多の感あり。「中間」は不要では？
- ・記名式にするのはいかがでしょうか
- ・1. テキストの難易度と授業の難易度の区別のつかない学生が多い。2. 学生はより平易で楽な授業を望む傾向があり、授業にサービスを期待する態度が見られるのはいかがなものか。3. 無記名のためツイッター化する懸念がある。

36名の先生方が中間アンケートを実施したと回答されました。実施された方の7割以上が中間アンケートに「意義があった」もしくは「どちらかという意義があった」と回答しており、中間アンケートを活用していただいていることがわかります。中間アンケートの結果を受けて授業を改善した内容については、説明をわかりやすくした、受講生の理解や反応を受けとめるようにした、速度（進度）を見直した、難易度を見直したという回答が多く見られました。一方、実施しない理由としては受講者が少数、時間が足りない、毎回の授業で実施しているという理由が挙げられていました。

中間アンケートの設問については、FD委員会の様式を利用された先生の多くが現状のままでよいとお答えになっていましたが、記名式にするなどのご意見もいただきました。

全体として、多くの先生方が授業アンケートや独自の方法を利用して、学生からの反応を受けとめ、熱心に授業改善をしておられるということがわかりました。本アンケートを通じて、回答して下さった先生方のさまざまな工夫について共有することで、今後の授業改善に少しでも役立てていただければと思います。アンケート結果やアンケートを通じていただいたご意見は、今後のFD活動の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：太田委員長、神代副委員長、佐藤（美）、小松崎、東村

（事務担当：河原田、山本、鈴木）